

企画展 デビュー100年「和田 傳」再発見— 今甦る あつぎの明治・大正・昭和を生きる作家の真実 — 開催要領

- 1 名称 デビュー100年「和田 傳」再発見  
— 今甦る あつぎの明治・大正・昭和を生きる作家の真実 —

2 趣旨

厚木市を代表する作家であり、厚木市名誉市民第一号でもある和田傳（以下、「和田」という。）は、「和田傳文学賞」として市内の小・中学生にもよく知られるところです。しかし、その著作は全て絶版となり手軽に入手することはできません。

令和5年（2023）7月は、和田が処女作「山の奥へ」を発表してからちょうど百年になる年です。そこで、これを機として、和田の事績と著作を広く紹介する展示会を企画いたしました。

「和田傳」を身近に感じ、激動の時代にあっても常に農民の幸せを願い続けた変わらぬ和田の芯、その魅力に改めて気付いていただくことを第一に、和田傳再発見とするものです。

- 3 会期 令和5年7月22日（土）から9月18日（月・祝）まで

- 4 会場 あつぎ郷土博物館

- 5 主催 厚木市教育委員会

- 6 協力 （順不同、敬称略）

太田麻生、加藤芳明、小島富司、小島櫻禮、白坂洋一、日向氏博、椋棒哲也、山口弘、吉田隆一、県立神奈川近代文学館、新潟市歴史博物館、日本農民文学会、家の光協会、株式会社池田書店、株式会社砂子屋書房、前進座

- 7 展示構成と展示物（企画展示室）

- (1) 第1章 作家「和田 傳」誕生—かくして青年は作家になった—

ア 「和田 傳」をかたちづかったもの

和田家文書から「和田家」の由緒を紹介します。

(ア) 相州大中郡恩名之郷御給分御縄打水帳

(イ) 五人組御仕置帳

イ 作家「和田 傳」萌芽の兆し

地元で学び、文学を志して早稲田に進学、学びを深める姿を紹介します。

- (ア) 卒業証書（南毛利小学校、県立厚木中学校(現厚木高校)、早稲田大学高等予科、早稲田大学)

(イ) 学生時代の論文

ウ デビューの一作

作家「和田傳」誕生となった作品、“100年前の実物”を紹介します。

(ア) 「山の奥へ」ゲラ

(イ) 『早稲田文学』（「山の奥へ」掲載号、大正12年7月）

- (2) 第2章 戦時下の和田傳 —新潮社文芸賞『沃土』から長編記録小説『大日向村』へ—

ア 郷家（ごうか）に帰る

娘の学齢を機に、東京から郷家に帰った和田が家業を手伝いながら執筆に励む姿を紹介します。

(ア) 移転通知（関係者に恩名への転居を知らせる葉書）

(イ) 『平野の人々』（初の小説集出版、昭和11年）

イ 第一回新潮社文芸賞受賞作『沃土』

『沃土』が新潮社文芸賞受賞し、政治的役割を引き受け始める姿を紹介します。

(ア) 山崎剛平よりの書簡（沃土原稿受け取りに付き礼状）

(イ) 新潮社文芸賞受賞記念写真

ウ 『大日向村』発表

信州の寒村大日向村の人々が満州移民へ向かう過程を描いた話題作と、その周辺を紹介し、時代の空気を感じていただきます。

(ア) 『大日向村』直筆原稿

(イ) 国旗（寄せ書き）、農民ペンクラブ旗

- (3) 第3章 作家「和田 傳」の世界 —和田がつむいだ人と本—

ア 作家の書斎

和田が書斎にかけていた恩師吉江揮毫の額など、和田の身近にあった品々を御覧いただきます。

(ア) 額「竹柏書堂」

(イ) 万年筆等身の回りの品々

- (4) 第4章 新しい時代に向けて—『日本農人傳』そして『翺雲』—

ア 『日本農人傳』の旅

戦後、原点回帰を志した和田が、研究心に富んだ全国の農業家、篤農たちを訪ね、ゆかりの人々と交流し、『日本農人傳』記す姿を紹介します。

(ア) 家の光との契約書

(イ) 農人取材の原稿(各地からの情報)

イ 戦後の話題作『翺雲』誕生

『翺雲』誕生までを紹介し、そこに込められた和田の新しい時代に向けた熱いメッセージ、農民への愛を読み解きます。

(ア) 『新しい村づくり』(昭和31年)に見る新しい生活への提言

(イ) 『翺雲』直筆原稿

ウ 映画『翺雲』(昭和33年)

当時のポスターを御覧いただき、それを我がこととして受け止めた地域の様子を紹介します。

(ア) 映画関連資料(ポスター、チラシ、スチール、台本)

(イ) 映画についてアンケート(長谷婦人会実施)

(5) 第5章 今に続く「和田 傳」—今日まで、そして明日から—

ア お別れのときを越えて

和田逝去に関する事柄を紹介します。

(ア) 和田傳死去関係新聞記事

(イ) 「梓・千草へ」(遺書表書き)写真、「葬儀」写真

イ 「和田傳文学賞」

没後、和田傳文学基金事業「和田傳文学賞」が創設された経緯、それが今に続くことを紹介します。

(ア) 「遺族500万円寄付」の新聞記事、御礼状(市長)

(イ) 文学賞授賞式、冊子

ウ 『農民文学』

和田が初代会長を務めた「日本農民文学会」発行の冊子は中央図書館に所蔵されていることを紹介します。

(ア) 雑誌『農民文学』

(6) 「和田 傳」を間近に

ア ライフワーク『門と倉』

和田のすべてが注ぎ込まれた『門と倉』、直筆原稿3,300枚という圧倒的な量から和田の熱量のほどを感じていただきます。

(ア) 直筆原稿

(イ) 『門と倉』全巻

イ 和田の手跡(て)様々

展示ケースに並べきれなかった個性的な資料を間近に御覧いただきます。

(ア) 中学時代の作文

(イ) 直筆原稿と本

## ウ 『山の奥へ』～農具の近代化～

エントランスホールに当時の農具を展示し御覧いただきます。

### (ア) 農具

## エ 年表（廊下）

和田作品の魅力は、作品の時代背景を知ることによって一層深まります。

和田の生涯と地域史が通覧できる全長8メートルの年表を掲示し、来館者に御自身の人生と重ねることで、和田をより身近に感じていただく一助とします。

## 8 広報

博物館ホームページ、博物館 Facebook、広報あつぎ、デジタルサイネージ、ポスター・チラシ（関係機関、学校、市内公共施設等）等

## 9 印刷物

- (1) ポスター 200 枚
- (2) ちらし 4,000 枚（庁内印刷・同上）
- (3) 図録冊子 1,200 部
- (4) 夏休み自由研究応援企画 ワークシートに挑戦！ 500 枚（庁内印刷）
- (5) 展示資料一覧 3,000 枚（庁内印刷）
- (6) 「いわし雲」冊子 1,000 部（庁内印刷）
- (7) 「山の奥へ」冊子 1,000 部（庁内印刷）

## 10 関連事業

### (1) 講演会

ア 日 時 令和5年7月29日（土） 午後2時～4時

テーマ 和田傳文業百周年記念展覧会に寄せて

講 師 椋棒哲也氏（立教大学 兼任講師。同大学日本学研究所 研究員）

イ 日 時 令和5年8月27日（日） 午後2時～4時

テーマ 和田傳と民俗（仮）

講 師 小島瓊禮氏（琉球大学名誉教授）

### (2) 映画「翺雲」上映会

日 時 令和5年9月2日（土） 午後2時～4時30分

場 所 保健福祉センター 6階ホール

参加者 200人

### (3) 関連講座

ア 日 時 令和5年7月23日（日）

午前9時30分～正午、午後1時30分～4時

テーマ 描くって楽しい！ 夏休み、お絵描き教室

講師 小島富司氏（元小学校長。『農民文学』誌表紙絵作家）

対象 小・中学生（午前・午後ともに各回15人）

イ 日時 令和5年8月6日（日）

午前10時30分～正午、午後1時30分～3時30分

テーマ 書くって楽しい！ 夏休み、文章教室

講師 白坂洋一氏（筑波大学附属小学校教諭）

対象 小学生（午前 低学年、午後 高学年、各20人）

(4) 展示解説（ギャラリー・トーク）

日時 7月22日（土）、8月19日（土）、9月18日（月・祝）

午後2時から30分程度

(5) 夏休み、図書館・博物館に行ってみよう！館・館スタンプラリー

詳細は別添のとおり

(6) 夏休み応援企画 ワークシートに挑戦！

来館者が展示を見て、和田やあつぎに関する問題に答えるなど、自由に参加できるワークシートを作成します。また、より深く知りたい方には図書館での調べ学習を提案します。

(7) 申し込み方法と締め切り（応募者多数の場合は抽選）

(1)・(3)は、講座実施日の10日前までに、窓口で直接、講座予約システム、電話、FAX、メールで申し込み。

(2)は、往復はがきで申し込み。8月18日の消印有効。返信の〈当選〉葉書が上映会入場券となります。

※1枚のはがきで5人まで申し込み可

(4)・(5)・(6)は申し込み不要。当日参加。